
クリニックの外来診療

保健会館クリニックの実施成績

丸 茂 一 義

東京都予防医学協会
健康支援センター長・保健会館クリニック所長

はじめに

東京都予防医学協会(以下、本会)に所属する保健会館クリニックでは、1階で一般的な内科外来、専門外来、外来栄養指導、小児の慢性疾患に対する相談や指導、上部および下部消化管内視鏡検査を行い、3階で婦人科および乳腺に関する外来と検査を行っている。

当クリニックは次の3点を目的に設置されている。

第1は、健康診断や各種がん検診で異常を指摘された受診者への結果説明である。受診者の中には結果報告を適切に解釈できず、必要以上に心配する方や、どう対処すべきなのかわからない方は少なくない。そういった方に正しい解釈の仕方、あるいは日常生活や受診の方法などを指導することは重要な役割である。

第2に、健康診断あるいはがん検診から専門病院への橋渡しとなる2次検診の役割である。初回の結果で精密検査が必要と判定された場合には問題ないが、再検査の判定をそのまま差し戻しにするのか、経過観察にするのか、あるいは専門施設受診が必要なのかを判定し直すことは、受診者のみならず専門医療機関の負担を軽減させるという意味でも重要であり、殊にがん検診においては本会の検診精度向上にも寄与することが期待できる。

第3は、地域に密着した医療機関としての立場である。当クリニックは近隣住民のための地域医療の一端を担っており、一般的な疾患の診断治療や、ワクチン接種などの医療サービスを提供することも求め

られている。また所属している新宿医師会に対しても2次検診受診機関としてその役割を果たしている。

各外来の実績

2013(平成25)～2022(令和4)年度の外来の受診者数の推移を表1に示す。新型コロナウイルス感染症の流行により2020年度に底打ちとなった外来受診者数は、2021年度から2022年度にかけて17,271人から17,152人と微減した。各科別にみると循環器と呼吸器(肺診断料)、代謝外来は増加、婦人科および女性外来はやや増加、消化器、糖尿病、腎臓病、乳腺、甲状腺、呼吸器内科外来が減少傾向であった(表1、図)。

表2、3に消化管内視鏡検査の結果を示す。上部消化管内視鏡検査は2020年度にいったん件数が減少したのち増加に転じ、2022年度は5,173件と過去最高件数となった(表2)。また下部消化管内視鏡検査(大腸内視鏡検査)数は2022年度は595件で、いまだコロナ渦以前には復していない(表3)。

各部門の状況

看護部は18人の常勤者および18人の非常勤者が在籍しており、外来、人間ドック、施設内健診、出張健診などの診療の介助の他、採血や各種の測定などの検査業務や看護業務をそれぞれ交代で担当している。このうち10人は衛生管理者、5人は消化器内視鏡技師の資格も有している。

また看護部の看護師は、がんに関する精密検査結

表1 クリニックの10年間の受診者数推移

(単位：人)

科目	年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	内科	3,566	3,049	2,829	2,941	3,165	2,727	2,174	1,194	531	502
消化器(肝臓病含む)	2,602	2,891	3,572	3,886	3,980	4,018	5,553	4,329	4,873	4,700	
循環器	941	830	817	679	341	200	113	79	415	717	
糖尿病	799	707	752	808	938	1,100	919	943	1,059	959	
腎臓病	149	140	136	129	120	144	207	94	97	90	
呼吸器(肺診断科)	641	694	733	673	723	787	729	582	581	714	
整形(骨粗鬆症)	100	23	-	-	-	-	-	-	-	-	
乳腺	1,537	1,552	1,604	1,723	1,705	1,474	1,501	1,555	1,710	1,476	
婦人科	4,405	4,979	5,081	5,275	5,195	5,628	5,505	4,092	4,247	4,328	
甲状腺	4,116	4,222	4,376	4,569	4,654	4,597	1,450	1,262	1,377	1,335	
女性(婦人科一般)	313	501	571	664	773	1,015	1,227	1,097	1,287	1,360	
代謝	120	95	111	93	107	38	35	40	46	49	
禁煙	25	49	54	33	51	7	12	12	4	-	
呼吸器内科(睡眠時無呼吸)	-	662	967	1,128	805	311	523	395	431	381	
外来栄養指導	32	35	50	48	59	54	38	25	31	18	
腎臓病	14	9	37	19	30	29	17	25	43	20	
貧血	25	16	27	10	8	14	12	2	4	6	
コレステロール	54	58	65	52	62	75	91	71	105	123	
心臓病	131	159	156	150	141	121	122	109	113	115	
脊柱側弯	214	176	187	229	246	244	220	193	222	187	
やせ症	-	-	58	83	118	127	113	107	95	72	
合計	19,784	20,847	22,183	23,192	23,221	22,710	20,561	16,206	17,271	17,152	

図 クリニックの10年間の受診者数推移

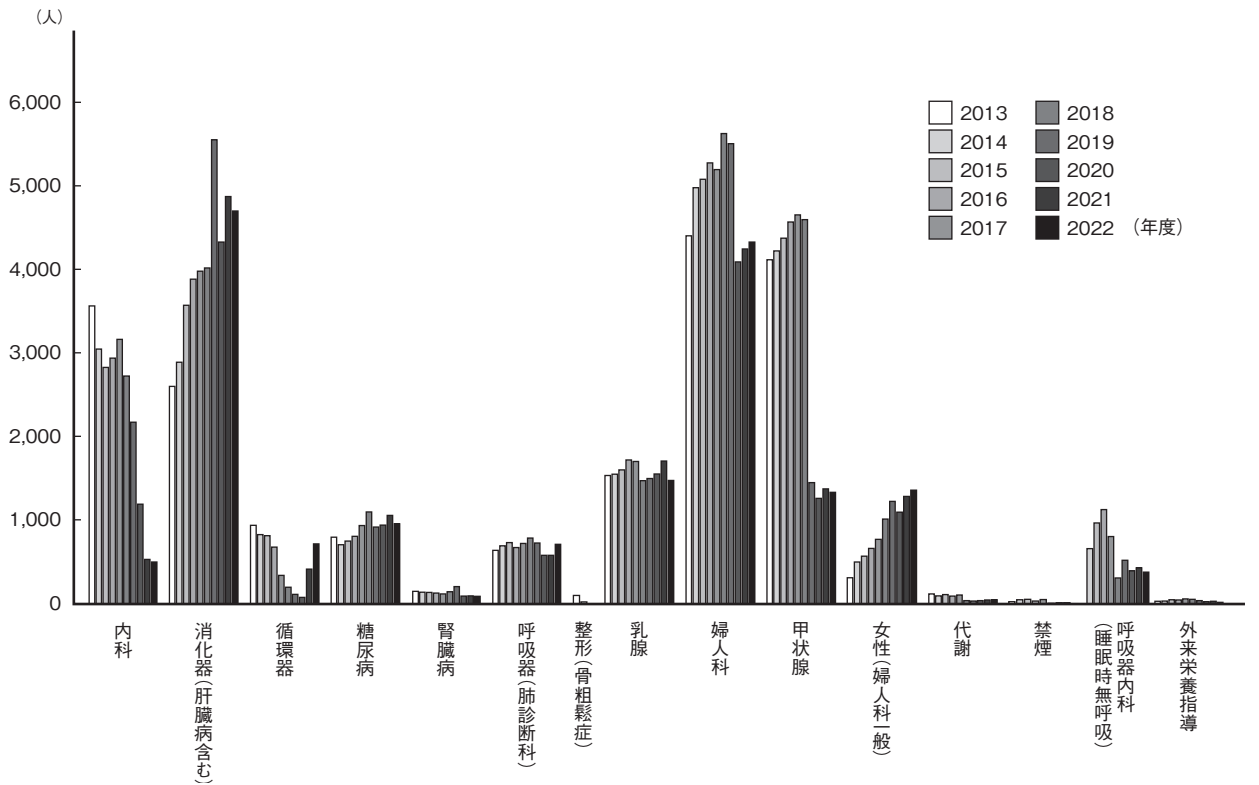


表2 年度別の上部消化管内視鏡件数と生検数・がん発見数

年度	上部消化管内視鏡件数	生検数	胃がん発見数	食道がん発見数
1999	1,549	1,004	28	
2000	1,610	941	42	
2001	1,739	1,111	29	
2002	1,679	931	23	
2003	1,531	757	18	
2004	1,623	737	10	
2005	1,743	708	21	
2006	1,695	697	18	
2007	1,514	561	13	
2008	1,611	556	26	
2009	1,684	457	16	2
2010	1,684	418	10	2
2011	1,672	374	8	1
2012	1,524	302	13	4
2013	1,817	287	17	5
2014	1,928	209	7	5
2015	1,690	249	14	4
2016	3,496	343	16	7
2017	4,003	495	17	0
2018	4,317	499	15	1
2019	4,752	413	10	0
2020	3,907	254	4	4
2021	4,672	260	7	2
2022	5,173	238	4	1

表3 年度別の下部消化管内視鏡検査数・ポリープ切除数・がん発見数

年度	下部消化管内視鏡検査数	ポリープ切除	紹介件数	大腸がん発見数
2015	454	16	29	5
2016	578	121	118	22
2017	663	293	100	18
2018	686	156	95	11
2019	690	164	103	11
2020	495	97	97	15
2021	619	108	106	14
2022	595	120	107	15

果の追跡調査を分担している他、本会内医療安全推進委員会の下部組織であるリスクマネジメント部会にも参加しており、業務マニュアルの作成、更新なども行っている。

医事課には常勤4人、非常勤7人の職員が在籍し、2人が衛生管理者の資格を有している。個人情報を取り扱う機会が多いこともあり、日常的に個人情報保護法に基づく教育を行っている。

また2020年度より電子カルテが導入され、実際に運用を開始しているが、いまだ不十分な点も残っており、実際に臨床の場からのフィードバックを受け、今後の改善を図っている。

医師は常勤医6人(内科系4人、婦人科1人、乳腺科1人)で、これに加えて複数人の非常勤医師が各科外来や内視鏡などの検査を担当しており、それぞれの担当を以下に示す。

〈内科外来〉

消化器、循環器、糖尿病、呼吸器の専門医が、それぞれの専門外来として担当しているが、内科外来としての専任医師はいない。受診者側のニーズとしては専門医以外にも総合的な判断を下す一般医の存在が求められていることは確かなので、今後はそのような体制を築いていくことも必要と考える。

〈消化器内科外来〉

消化器内科外来は川崎成郎および星野京子の2医師が常勤として、松村理史、大久保理恵の2医師が非常勤として診療にあたっている。主に上部消化管造影での要精検者や便潜血検査陽性者に対する説明、内視鏡検査の受診勧奨と手続き、良性疾患に対する治療や経過観察を行っている。腹部超音波での有所見者に対しては、国立がん研究センター中央病院および日本大学病院と提携し、精密検査や経過観察を行っている。

〈循環器内科外来〉

循環器内科外来は進藤彰人医師に加え2022年4月

から山崎允喬医師が担当しており、健康診断で異常を指摘された受診者への説明や追加検査、精密検査機関への紹介を行っている。

〈糖尿病外来〉

糖尿病外来は順天堂大学医学部医局からの派遣医師および大平理沙、谷山松雄の各医師が担当し、健診で糖尿病が疑われた受診者に対しての精密検査や、その後の治療を継続的に行っている。

〈腎臓病外来〉

腎臓病外来は濱口明彦医師が担当し、健診で尿タンパク陽性、血尿あるいは腎機能低下が疑われた例に対しての説明や再検査、あるいは精密検査機関への紹介、経過観察などを行っている。

〈肺診断科外来〉

肺診断科外来は丸茂一義医師が常勤として、がん研有明病院の奥村栄、文敏景の2医師が非常勤として担当している。健康診断や肺がん検診で要精査とされた受診者への説明を行う他、CTでの小さなすりガラス陰影(早期肺がんの疑い)の経過追跡となっている症例も少なくない。

〈乳腺外来〉

乳腺外来は坂佳奈子および杉浦良子医師が担当し、本会の乳がん検診で要精検となり、当クリニックを希望された受診者を中心に診療しているが、他機関での要精検対象者や地域住民の有症状患者の精密検査も受け入れている。またマンモグラフィや乳房超音波検査などの画像診断を行い、必要に応じて乳頭分泌物細胞診、穿刺吸引細胞診など質的診断も実施している。

乳がん患者数の増加や社会的要望の高まりにより、外来患者数は増加しており、軽症例は検診に戻すようにして、精密検査が必要な患者が速やかに受診できるように外来予約枠の確保に努めている。紹介病院については受診者の利便性や希望に応じて多数の

基幹病院と連携し、受診者がよりよい治療を受けられるように配慮している。

〈甲状腺外来〉

甲状腺外来は岩間カールソン彩香医師が担当しており、年間約1,300人前後の受診者を診療している。

外来時には当日採血により処方量の調節を行っているが、遠隔地からの受診者に対しては検査結果を封書で知らせるというサービスも行っている。

〈婦人科外来〉

婦人科外来は久布白兼行、西野るり子、齊藤英子、田中京子、西尾咲子の各医師と、慶應義塾大学病院からの派遣医師で診療が行われている。

東京産婦人科医会の会員より紹介された受診者、および本会施設で実施した子宮がん検診や人間ドックにおいてベセスダ方式でLSILとされた例やHPV感染例に対して、コルポスコピー検査、細胞診および組織診を併用して子宮頸がんの早期発見に努めている。

〈女性外来〉

女性外来は金子容子、増田美香子、松田美保に加え、2022年9月から小川真里子の各医師が担当し、がん以外の婦人科疾患についての診療を行っている。検診受診者以外にも近隣地域住民の受診が極めて多く、外来枠を増やして対応している。

〈代謝外来〉

代謝外来は石毛美夏医師が担当しているユニークな外来である。新生児スクリーニング検査で発見されたアミノ酸代謝異常症(フェニルケトン尿症など)や、小児糖尿病検診で発見された2型糖尿病などを対象に、小児から成人に至るまでの成育医療を実施している。

〈呼吸器内科外来、睡眠時無呼吸外来〉

呼吸器内科外来は中園智昭、福田紀子、丸茂一義

の3医師が担当し、睡眠時無呼吸外来は福田紀子、中園智昭の2医師が担当している。

呼吸器内科外来では、健診や自覚症状でCOPDや喘息などの慢性的な呼吸器疾患が疑われた受診者への診断や治療が行われ、睡眠時無呼吸外来も一定の受診者数が続いている。

〈外来栄養指導〉

外来栄養指導は管理栄養士が交替で担当しており、健診で肥満などを指摘され指導を希望した受診者に対し個別に行っている。受診者は増加傾向にはあるものの、認知度が低く十分に利用されていない。各種疾病の予防のために重要な指導なので、充実を図る必要がある。

〈小児健康相談室〉

小児相談室においては、脊柱側弯症を南昌平医師、貧血を前田美穂医師、腎臓病を村上睦美医師、心臓病は浅井利夫および2022年6月から鮎澤衛の2医師体制、またコレステロールを岡田知雄医師、思春期やせ症を鈴木真理医師が引き続き担当している。詳細に関しては学校保健の項を参照されたい(2023年度で終了予定)。

〈内視鏡センター〉

上部消化管内視鏡検査は川崎成郎、松村理史、竜崎仁美、赤井祐一、大久保理恵、加藤理恵、加藤知爾および昭和大学病院グループの各非常勤医師によって、同時に2室で検査を行っている。また下部消化管内視鏡検査は川崎成郎、赤井祐一、竜崎仁美、大久保理恵の各医師が担当している。

下部消化管内視鏡検査の対象は、本会で行っている職域や住民の健康診断や大腸がん検診、人間ドックでの便潜血検査陽性者に対するの消化器外来からの依頼例が大半を占めているが、年間1,000件程度の検査が可能であり、現状ではまだ余力が存在している。周辺の施設とも積極的に連携して地域医療にも貢献していく必要があると思われる。

おわりに

保健会館クリニックの外来は、他の一般の診療所とは異なり、自覚症状を有する受診者は少なく、大半は健康診断や各種がん検診、人間ドックなどで何らかの所見を指摘され、精密検査やその後の経過観察のために受診しているという特徴がある。また、健(検)診の内容が多岐にわたるため、臓器や疾患別に検査の流れも異なり、業務は非常に複雑だが、受診者の多くは日常的に社会生活を

送っているため、大半の外来では時間ごとの予約制にして、待ち時間なく診療できるように努力している。

地域医療へ貢献するためには、需要に応じた専門外来の充実も重要であるが総合的な内科外来も検討すべきであろう。

一部の診療科や下部消化管内視鏡などではまだ余力があるので、マンパワーや医療機器の有効活用を図りたい。